

# 中古ゲームショップに行こう

文責:デリバ

みなさん、はじめまして。今年度 TGA の代表を務めさせていただきデリバと申します。この記事ではとある春休みに、同居している鬼っ子のユキさんと一緒に中古ゲームショップに行った時の様子を会話形式で紹介したいと思います。

ユキ 「……というわけで、電気街にやってきました。」

「今回はデリバさんが中古ゲームが見たいということで私も一緒についてきたわけですが……。」

デリバ 「……………」

ユキ 「どうやら物色に集中しているみたいですね……。」

デリバ 「海原川背・匂(PS)が1,800円かー。そこそこ安い気がするけど。」

ユキ 「デリバさんは中古ゲームショップに入るなりWiiやPS3のコーナーには目もくれず一目散にPSのコーナーに向かっていました。」

「デリバさん、一体どうしてPSのコーナーに直行したんですか。」

デリバ 「WiiやPS3のような比較的新しいゲームのソフトはどこでも見つかるからね。別にこの店で見る必要がない。それに比べPSのような少し古いゲームのソフトはもう置いていないゲームショップも多い。だからPSのコーナーを見つけた時、ついテンションが上がっちゃったんだ。」

ユキ 「なるほど。」

デリバ 「ほとんどがどこにでも置いてあるようなスポーツゲームだったりするからなかなか目的のものは見つからないんだけど、だからこそいざ目的のソフトが見つかった時、すごく得した気分になるんだ。」

ユキ 「まるで宝探しみたいですね。」

デリバ 「そうそう。SFCのカセットなんかはワゴンに無造作に置かれていることも多く、その中を必死に漁っている時なんかもとても楽しい気分だよ。」

「あと、たまにとんでもなく高いゲームソフトが置いてあつたりすると、そのゲームのことをよく知らなくてもなんだかテンションが上がるよね。」

ユキ 「はあ。私もスーパーの安売りでははしゃいでしまいますし、それと同じようなものなのではないですか……。」

～小一時間後～

デリバ 「……さてと。」

ユキ 「あ、終わったんですか?」

デリバ 「そうだね、この店はもういいかな。」

ユキ 「じゃ、じゃあ一緒にご飯食べに行きましょうよ!」

デリバ「どこ行きたい？」

ユキ「えっとですね、私は……。」

～昼食後～

ユキ「ごちそうさまでした！」

デリバ「さてと、じゃあ次の中古ゲームショップに行こうか。」

ユキ「え、まだ行くんですか～!？」

デリバ「今日は陽が沈むまでお宝探しだー！」

ユキ「ふええ……。」

～日没後～

デリバ「それじゃ、そろそろ帰ろうか。」

ユキ「あ、はい!(やつと帰れるよ……。)」

「……って結局何も買ってないじゃないですか!」

デリバ「うーん、何だかんだ言ってネットで買う方が安いからなあ。」

ユキ「夢もキボーもありやしないですね……。」

「だったら最初からネットで買えば良かったのでは……。」

デリバ「まあそうなんだけどさ。でもやっぱり、ゲームが並べられているのを見てるだけでわくわくするじゃん。

それに、久しぶりにユキさんと一緒にお出かけしたかったしね。」

ユキ「……あ、あのつ。」

デリバ「じゃあ帰ろつか。」

ユキ「……はい。」

楽しみにしていた新作ゲームの発売日、新たな芽吹きに胸がときめきますよね。それで思いのほかつまらなかつた時のがっかり感といったらもうほんと辛いですよ。

新作ゲームとの出会いも捨てがたいものです。しかし、どうでしたか。この記事を読んで、中古ゲームショップに行ってみたくありませんでしたか。中古ゲームショップはまさに宝の山です。棚に並べられているゲームを眺めている時、あなたは幸せの渦の中にいるかのように感じることでしょ。実際に買うのはネットの方が安いのですが、ゲームを眺めているあの瞬間はプライスレスです。

つらつら書きましたが、別に私は古いゲームに固執しているのではなく、ただ新旧問わず色んなゲームをやろう、ということを提案しているにすぎません。

みんなも一緒にゲームを楽しもうよ!